

都民連だより

夏

平成30年7月
(第54巻1号)

特集 東京の100周年「一日民生委員・児童委員」

- 民児協活動紹介「神楽鳩子の班活動探訪⑤」 ●わがまち100
- 都民連通信「民生委員・児童委員の日 活動強化週間」(別紙:平成29年度都民連事業報告・決算)
- キラリ☆この人 ●東社協コーナー ●活動記録あれこれ ●ミンジーレポート ●編集後記



【写真提供:清瀬市】

東京散歩

清瀬ひまわり フェスティバル

(清瀬市)

8月18日から8月28日にかけて開催される清瀬ひまわりフェスティバルは今年で11回目となり、市の夏の風物詩となっています。約24,000平方メートルもの広大な農地に咲く約10万本のひまわりは都内最大級と言われ、多くの人を魅了します。期間中、会場では近隣の農地で採れた新鮮な野菜や切り花、特産品であるにんじんを使用したジャムなどの販売がある他、写真コンテストなどのイベントも開催されます。ぜひ、夏の思い出に、圧巻のひまわり畑に出かけてみてはいかがでしょうか。

交通アクセス: 西武池袋線「清瀬駅」北口から西武バス「志木駅南口」行きグリーンタウン清戸バス停下車徒歩6分 土日専用無料シャトルバス(開催期間中限定)清瀬駅北口臨時バス停からコミュニティプラザひまわり入口バス停下車徒歩7分 ※専用駐車場はありません。

問い合わせ先: 042-492-5111(産業振興課)



東京の一〇〇周年 二日民生委員・児童委員

本会では「東京の一〇〇周年（救済委員制度誕生一〇〇周年）」事業の一つとして、各区市町村長等による「一日民生委員・児童委員」を企画し、都内全地区民児協とともに民生児童委員の役割や存在をアピールしました。

今回の特集では、救済委員制度が発足した6月13日を中心に、各地区で実施された取り組みの様子をご紹介します。



**東京都知事が就任！
パレード出発前には
激励のメッセージも**

今年のパレードでは、小池百合子東京都知事が一日



▲パレード開会式の様子
(左：寺田会長／右：小池百合子都知事)

民生委員・児童委員（以下、民生児童委員）を務めました。新宿の追分交番前で行われた開会式にて、タスキを受け取った小池都知事は、「地域で子どもたちを守る先頭に立つのが民生児童委員。これから皆さんの活躍に期待します」とあいさつし、新宿伊勢丹前から新宿東口駅前までの約500メートルを委員と一緒に進み、大勢の人たちに、うちわを振りながら、東京の一〇〇周年、民生委員制度をPRしました。

～都知事からのメッセージ～

東京の民生委員制度は、今年100周年という記念の年を迎えました。

本日は、ここ新宿通りに1,500人の民生委員・児童委員の方々に集まりいただき、東京の民生委員制度誕生100周年記念パレードを盛大に開催できますことを、大変嬉しく思います。厚く御礼を申し上げます。

都内では、約1万人の民生委員・児童委員が、地域住民からの生活上の様々な相談に応じるほか、高齢者、障害者世帯等を定期的に訪問し、体調の変化や犯罪被害防止等のための見守り役となっています。

また、いわゆる災害弱者の方の把握や、登下校時の子供たちの見守りや声掛け、通学路周辺のパトロールなど、様々な活動をボランティアでおこなっていらっしゃいます。

民生委員・児童委員の皆様の存在は、福祉の課題が複雑・多様化する中、益々大きなものとなっております。皆様方には、地域社会と行政の架け橋として、今後とも、お力添えを賜りますよう、心からお願い申し上げます。

都民の皆様、高齢者や障害のある方への支援が必要など、子育てや介護での心配事や不安など困ったことがあるときは、一人で悩まずに、民生委員・児童委員にお気軽にご相談ください。

皆様、ご一緒に、記念すべき100周年を盛り上げてまいりましょう。

平成30年5月13日

東京都知事 小池百合子

小池百合子



▲子育てサロン訪問（中央区）

サロンの場や戸別訪問等 複数の場で活動を紹介します 【中央区】

中央区では、委嘱状伝達式に始まり、子育てサロンの手伝い、駅頭PRグッズの配布、高齢者訪問と盛り

子どもに焦点を当てて アピール 【新宿区】

新宿区の活動は小学校の校門前からスタート。ランドセルを背に元気に登校する児童に「おはようございます」と声を掛けると、子

だくさんの内容で実施しました。テレビやラジオの取材も入り、区民に対し広く届けることができました。

子育てサロンでは、区長からの「かわいいね。元気に育ってね」の言葉に子どももママもうれしそうに笑顔を見せてくれました。



▲絵本の贈呈（新宿区）

どもたちからも大きな声であいさつが返ってきました。その後は、こども園（※）を訪問。区民児協が自主活動として長年実施している絵本の贈呈を行いました。区長が園児に絵本を手渡し、「ありがとう」と喜ばれ、読

み聞かせも大好評でした。

地域のイベントを活用 区民の前で委嘱式

〔江東区〕

江東区長がミンジーと共に登場したのは、「こどもまつり」のステージです。

オープニングセレモニーで委嘱式が行われ、来場者に向けて、民生児童委員の役割を紹介しました。

さらに、民児協の出展ブースを訪れ、日頃の活動をねぎらうとともに、住民と交流しました。ミンジーも大気度で「かわいい!」と駆け寄る子どもが多く、普及活動の一役を担いました。



▲こどもまつりのオープニングセレモニー（江東区）

記念大会に参加 民生音頭も踊る

〔葛飾区〕



▲記念大会パネルディスカッション（葛飾区）

5月16日、『民生委員・児童委員の日』記念大会に出席し、壇上で委嘱を受けた区長は、パネルディスカッションに参加しました。

地域の課題や活動に関する意見交換を通じ、住民に寄り添う民生児童委員の重要性を再確認いただけたことは大きな成果です。

また、大会恒例の民生音頭を委員と輪になって踊り、親睦も深まりました。

市役所内にパネルを設置 市民にも職員にもPR

〔昭島市〕

昭島市では市民はもちろん、行政職員・関係者にも活動を知ってもらおうと、役所のロビーでパネル展を実施しました。市長は来庁した市民にリーフレットを手渡ししながら、「困ったことがあれば役所や地域の民生委員さんに気軽に相談を」と呼びかけます。

ぶらりと立ち寄った職員が興味深そうに資料を読み込む姿も見られ、大変意義深いパネル展となりました。



▲来庁した市民にPR（昭島市）

駅頭での啓発活動 市内全4カ所で実施

〔多摩市〕

多摩市には永山駅、聖蹟桜ヶ丘駅、多摩センター駅、唐木田駅の4つの駅があり



▲駅頭PR（多摩市）

ます。その全ての駅頭に市長が立ちPRを行いました。各駅で20分にわたり民生児童委員の活動を熱く語る市長の言葉に、道行く人も立ち止り、耳を傾けてくれました。また、リーフレットや絆創膏等のグッズも配布し、幅広い世代に委員の存在を周知できました。

高齢者との会食会 共に地域を考える

〔大島町〕

大島町では民生児童委員、社協、ボランティアが協力し合い、地域ごとに高齢者の会食会を行っています。今年は、三原山地域のまつりが開催される5月20日に会食会が予定されていたこ

とから、その場を活用して町長との交流を持ちました。20名ほどの高齢者が参加し、楽しく談笑しながら、生活の様子や町の福祉について語り合い、「民生委員さんにお世話になっています」との声も聞かれました。



▲和やかな雰囲気での高齢者と交流（大島町）

各地区とも、工夫を凝らした取り組みをしているね。実施にご協力



いただいた各民児協、事務局の皆さん、本当にありがとうございました。

民児協

活動紹介

神楽鳩子の

班活動探訪⑤

練馬区関・立野地区

民児協

【定数34名・班編成7班】

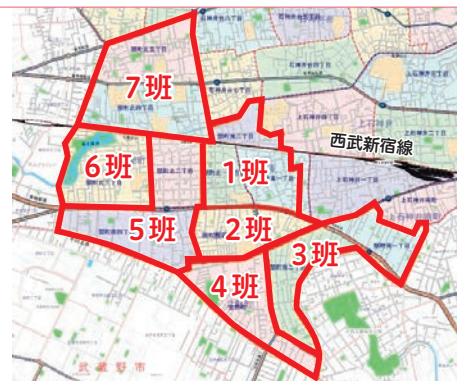


鳩子は、4月に委嘱された委員から、定例会後の班ごとの情報交換がとてもためになると聞きました。情報交換は、訪問時の心構えや関係機関への連絡方法など、多くのアドバイスが得られる機会になっています。

そこで今回、鳩子は、班活動によって民児協内の支え合いに取り組んでいる地区を訪れました。

「避難拠点」づくりの班編成

練馬区は、阪神・淡路大震災の被害・避難状況をもとに、災害時の活動拠点として区立の小中学校99校を



※練馬区管内図の著作権は区が有しております。

「避難拠点」と位置付けています。関・立野地区では、災害時の対応のために作成した連絡網をもとに、5年ほど前から民児協内の拠点を中心にリーダーを置いて概ね3〜6人からなる7つの班を編成しました。班体制導入以前から、地域の災害時要配慮者の名簿やマップが作成されていたため、災害時にも迅速に対応できる体制整備がねらいです。

現在は小柳ヒロ江会長のもと、新任委員の活動を支え、委員同士の学び合いが促進されるよう、地域の要

配慮者マップの更新に向けた情報共有、経験の浅い委員への活動方法の伝授など、さまざまな取り組みが行われています。

学び合いを支え合い

民児協では地域内のひとり暮らし高齢者の生活状態についての情報交換や、各委員の担当ケースの内容を共有する勉強会を1年に5回ほど実施。ある時は、訪問・調査活動における心構えや具体的な声掛けのノウハウなどを学び合いました。都民連が発行した「先輩委員に学ぶ訪問調査活動ガイドブック」をもとに、会長



▲民児協正副会長と各班長の面々



▲活動のさまざまなヒントを共有

をはじめとするベテラン委員が自身の経験に基づいて補足説明したりアドバイスしたりすることで、身近なものとして、より実践的に理解できたと好評だったそうです。

最近では、生活福祉資金の業務の流れを確認したところ、直後に実際の取り扱いを担当した委員から、「事前に学んでいたので戸惑わずに対応できた」という声が聞かれたとか。

経験の浅い委員にとって、少人数での学びの機会を通して活動に必要な知識や情報を身につけることができるとともに、豊かな経

験を持つたくさんの先輩委員たちに支えられているという安心感を得ることができたのではないだろうか。

何かの時に支え合う仲間

時には、体調などさまざまな事情でやむを得ず活動を一時的に休止するケースもあるでしょう。関・立野地区ではこうした際の担当業務を班の中で分担すると言います。「民生委員は、ひとりでは活動できないからサポートし合える関係が大切」と小柳会長。お互い様として、必要な時に支え合える仲間の存在は負担感を軽減し、生き生きと活動できる原動力となるはず。

「新任委員の活動を支えるために、班活動は実に有効です。委員同士の学び合いの機会としても、引き続き取り組んでいきたい」とおっしゃる小柳会長でした。



わがまち

100



本会では、民生委員制度創設一〇〇周年を記念し、①活動強化、②記念行事、③歴史総括の3つの視点から、各民児協がわがまちならではの一〇〇周年の取り組みを展開していくことを提唱しています。今回は、府中市で行われた「記念講演」等をご紹介します。

府中市民児協

(定数：176名)

地域で子どもを育むために

児童虐待をはじめ、子どもの貧困、不登校、いじめなど、子どもを取り巻く問題は後を絶ちません。そこで、府中市民児協では、民



▲記念講演は、多くの方にご来場いただき、大盛況でした。

生委員制度創設一〇〇周年であると同時に児童委員制度七〇周年でもあるこの機会を捉え、子育ての孤立や育児不安を抱え込まないよう、**子育て家庭を応援する地域づくりを進めること**を目指し、記念講演会を行いました。「**子どもたちの未来 それを支える地域社会**」と題した記念講演会は、民生児童委員のほか、広く地域の関係機関・団体、地域住民に呼び掛けて開催しました。当日は、府中市民児協芝辻義治会長の「この講演

会が地域のみなさまの活動のヒントになれば幸いです」とのあいさつに引き続き、NPO法人子育て

ひろば全国連絡協議会の奥山千鶴子氏にご講演いただきました。自身が設立した「おやこの広場びーのびー」での親子が成長していく姿や、卒業生となった親が今度はボランティアとして活動に関わることで、**主体的に地域で子どもを育む環境をつくっていること**など、とても参考になる内容でした。

また、後半は、民生児童委員も関わっている子ども食堂の実施団体、こどもの居場所づくり@府中の代表である南澤かおり氏より事例発表がありました。**課題を抱えた子どもが困った時に声を出せる地域づくり**の



大切さを学びました。

協賛とチラシにひと工夫

今回の講演会の協賛には、市立小中学校PTAや青少年対だけでなく、保護司会、自治会、老人クラブ連合会等にもお願いしました。言葉にならない子どもたちのSOSに気付くためには、**多くの地域の大人たちが日常的に親子に温かいまなざしを持って関わる**ことが大切です。地域の「気付き」力を高める講演会にもなりました。

また、チラシの裏面には、民児協活動についても掲載し、**民生委員は児童委員を兼ねていることをアピール**しました。チラシは、市内自治会での回覧や、先に行った一〇〇周年記念パネル展でも配布し、講演会および民児協活動について周知を図りました。

複合的に取り組む

府中市では、この講演会のほか、一〇〇周年を機に、生き生きと長く活動できるよう、また個々の力量を高められるよう「**班活動**」を市内全地区で始めたり、活動を理解してもらうためにPRリーフレットのリニューアルやパネル展等の「**普及啓発**」を行っています。これから先も、地域と共に活動を進めていく思いが込められた一〇〇周年の取り組みとなりました。



▲リーフレットは観音開きにより見やすいものに。中を開くと地図のほか、具体的な活動の写真も掲載しています。

民生委員・児童委員の日 活動強化週間



5月12日～18日は民生委員・児童委員の日活動強化週間です。今年は東京の民生委員制度が誕生して、100周年になります。都民連では、この100周年を記念したパレード・パネル展を実施し、普及・啓発活動に取り組みました。

都知事も参加した パレード

5月13日(日)、新宿通りにて、民生児童委員の存在を多くの方に知っていただくため、「みんなでつくる地域をつなぐ 支え合い」をテーマにパレードを実施しました。開会式では、小池都知事に「一日民生委員・児童委員」のたすきが贈呈された後、都民連 寺田会長の力強い開会宣言がありました。4大学の楽団と四谷交通少年団、計5団体による爽やかなメロディのなか、総勢1500人の民生児童委員と都知事が、都内各地のキャラクターたちとともに、新宿通りを歩き

大正7年からの歴史と 未来に向けて

同日より15日(火)までは、昨年に引き続き、新宿駅西口広場イベントコナーでパネル展を開催しました。

大正7年、東京府慈善協会救済委員の誕生から始まった東京の民生委員制度とこれまでの変遷がパネルとして展示され、その歴史の深さに、驚きの表情を見せる方も多くいらっしゃいました。

また、パネル展示のほか、各地の民生委員によるコーラスや、子どもたちも楽しめる遊べるエリア、相談エリアを設け、老若男女、大勢の方にお越しいただきました。立ち寄られた方の中には、「元民生児童委員」の方、「友人が委員活動をしている」方、「今後、民生児童委員としての活動を考えている」方などもおり、100年の歴史ある委員活

動が身近に、そして、今後受け継がれていく尊さを感じられる場となりました。



▲魚釣りで大盛り上がり！



▲民生委員の100年は地域とともに紡がれてきました



▲コーラスには大勢の方が詰めかけました

ご当地ミンジューも 活躍中！

広島県、大阪府にて、ご当地ミンジューが活躍しています。今後も全国各地の特色あるご当地ミンジューが登場する！かもしれません。



大阪府ミンジュー

広島県ミンジュー

平成30年度春の叙勲・褒章 受章者のご紹介

瑞宝章
長津 玲子様(杉並区)
松尾 光恵様(品川区)
山本 祥一様(足立区)

藍綬褒章
竹澤美壽保様(荒川区)

誠におめでとございます。

キラリ★この人



子どもたちに 元気をもらいながら 活動しています

品川区民生児童委員

かみむら まさえ
上村 政江さん

区内の小学校の正面玄関に2時間目が終わるチャイムが鳴って、しばらくすると子どもたちが元気よく集まってきました。15年以上も前から休み時間を利用して生徒にお花を教えている上村さんとボランティアの皆さん。花を生け始めると上村さんたちが手を取り丁寧にアドバイスをし、次々と立派な作品が出来上がります。生けた花はそのまま正面玄関に飾られ、来校者や保護者の方々に楽しまれています。「季節にもよりますが1週間程玄関に飾っています。花の剪定や水やりも私たちが日々交代で行っています」とのこと。

若い頃から華道に親しんでいた上村さんは、民生児童委員になる前から現在も高齢者向けの講座でお花を教えています。



それがきっかけで、学校から「生徒にもぜひお願いしたい」と依頼されました。今では学校行事と調整しながら、概ね月に2回程、学年・クラスごとに受け持っています。子どもたちとも顔見知りになり、地域で「この前はお花を教えてくれてありがとう」と声を掛けられることもあるそうです。

「この活動のおかげで、地域とのつながりもできてとっても楽しい。子どもたちの笑顔に私も元気をもらっています。今後もできる限り続けていきたい」とにこやかに話されました。

東社協コーナー

東社協（東京都社会福祉協議会）

社会福祉に関わるさまざまな課題の解決や、福祉サービスの向上などを目的として、都内の福祉に関わる関係者の幅広いネットワークづくりを通して、だれもが暮らしやすい地域社会の実現をめざして活動しています。

東京らしい“地域共生社会づくり” 東社協地域福祉推進委員会ワーキング～中間まとめ～

誰もが役割をもち、主体的に地域に参加し、共に支え合う——このような「我が事・丸ごと」の地域共生社会実現に向けた取り組みが各地域ですめられています。

東社協地域福祉推進委員会では、平成29年に民生児童委員や学識経験者、社会福祉法人、社協、NPO関係者等をメンバーとする地域福祉推進検討ワーキングを設置。東京らしい地域共生社会づくりのあり方について検討を重ね、平成30年3月に「中間まとめ」を公表し、東京モデルによる連携・協働体制の構築について提案しました。

関係者の協働による「東京モデル」とは

地域課題が複雑化、困難化する中、民生児童委員はこれまで以上に地域のさまざまな機関や活動と連携することが必要となっています。その重要な連携先として、社協などに配置され、地域支援・個別支援・しくみづくりの機能をもつ地域福祉

コーディネーターや、地域公益活動推進のための地域連携ネットワークをすすめる社会福祉法人・事業所が挙げられます。

個々の民生児童委員や社会福祉法人が協力するだけでなく、組織的に連携することでさらなる効果が望めます。民生児童委員協議会と社会福祉法人のネットワークの取り組みには、地域福祉コーディネーターや関係機関と連携し、縦割りになりがちな多分野・多機関のしくみに“横串”を入れる役割が期待されます。関係者が協働する「チーム方式の地域福祉推進体制」（「東京モデル」）により、多様な地域共生社会をめざします。

東社協地域福祉推進委員会地域福祉推進検討ワーキング「東京らしい“地域共生社会づくり”」のあり方について 中間まとめ 全文は、下記でご覧いただけます。

https://www.tcsw.tvac.or.jp/chosa/documents/180319chiikikyosei_chukan_1.pdf



「通知・案内の発送・受け取りや、複数の相手とやりとりした際の記入はどこへ？」

○委員同士や関係機関・団体と連絡調整を行った場合は、「連絡調整回数」に記入します。

◇連絡手段や方法は、直接会う他、電話・ファクス・通知・パソコンや携帯電話等のメールなど、どのような場合でも該当します。 ◇委員同士の連絡調整や相談は「委員相互 (9)」に、行政や社会福祉協議会、学校等の関係機関、町会・自治会などの関係団体は「その他の関係機関(10)」に記入しましょう。		その他の活動件数	連絡調整回数	
日・曜日	活動概要	運 民 営・児 研 修 協 (4)	委 員 相 互 (9)	関 そ 係 の 機 他 関 の (10)
4日 (月)	定例会の開催案内と児童委員としてかわりのある地域の小学校から学校公開の案内が届いた。		— *1	—
6日 (水)	所属している高齢福祉部会の役員として、次回部会の開催案内を部会員あてに一斉に発送した。	— *2		
22日 (金)	高齢福祉部会役員同士の連絡用グループ LINE (※)を使って、次回部会で取り上げる事例の内容について連絡した。		— *3	

【記入のポイント】*1:⇒定例会や部会の案内は、民児協としての連絡なので、「委員相互 (9)」に記入します。学校からの案内は「その他の関係機関 (10)」が該当します。

*2:⇒開催案内などの一斉送付は、部会や民児協会議等の準備と捉えて「民児協運営・研修 (4)」に1件記入し、連絡調整回数には記入しません。

*3:⇒委員同士の連絡なので、「委員相互 (9)」に記入します。このような携帯電話やパソコン等のメール、LINE (ライン) は、一度に送受信する回数が多くなるため、やりとりの内容 (この場合は事例検討の内容の連絡) について「1件」として捉えます。

※LINE: スマートフォンやタブレット端末等を介して無料でメッセージ交換や音声通話ができるサービス。1対1の他にもグループを作成してグループ内での連絡が容易にできる利便性がある一方、青少年の利用者を中心にトラブルの原因となる場合や事件・事故に巻き込まれるケースもある。



ミンジーレポート

こんなに違う!? 世界の福祉



第2回 「ニュージーランドのケースワーカー事情」

日本で生活保護を受けるときは、福祉事務所のケースワーカー (現業員) の方にお世話になるよね。受給の相談や自立支援など、ときには相反する役割も担わなければならない難しさがあるお仕事で、人手不足も深刻なんだ。



一方、ニュージーランドでは内容によって分担されているんだって。役割によって気を配る点も違うから、日本でも分担が進むと、もっと支援が必要な人が生活保護を受けられるようになるかな～?

生活保護に関わる役割	担当者	
	ニュージーランド (生活保障)	日本
①保護の決定・給付	ケースマネージャー	全て ケースワーカー (現業員)
②自立の支援	パートナー等	
③不正受給の防止・罰則適用	インベジティゲーター	

編集委員

小田島眞理子 (千代田区) 田中 千津子 (文京区)
山内 壽子 (品川区) 安井 敦子 (豊島区)
宮本 勝男 (足立区) 五辺 博子 (狛江市)
石川 謙一 (府中市) 森田 節子 (清瀬市)
北村 実 (昭島市)

編集協力

池永 和子
(都民連副会長: 広報担当)

編集後記

編集委員の任期の半分が過ぎました。
毎回、一つひとつの記事に対し全員が熱心に議論を重ね、都民連のあり方から各地の情報に至るまで、幅広い意見交換の場となっています。都民連だよりを通して、編集委員全員の熱い思いを都内民生児童委員や関係者の皆様にお届けしたいところです。
今後も和気あいあいと委員会を楽しみながら皆様に寄り添う紙面づくりを目指して頑張りたいと思います。

五辺博子

発行

東京都民生児童委員連合会
〒162-0823
新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ4階
TEL: 03 (3235) 1163 FAX: 03 (3235) 1169
E-mail: tominren@tcswn.tvac.or.jp
年4回発行 印刷: 株式会社トライ